

2023年5月24日

学校法人三幸学園  
大宮スイーツ&カフェ専門学校  
校長 増田 泰朗 殿

学校関係者評価委員会  
委員長 川原 紗也佳

### 学校関係者評価委員会実施報告

2022年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

#### 記

#### 1 学校関係者評価委員

- ① 川原 紗也佳 (第4期卒業生)
- ② 芥川 牧子 (在校生保護者)
- ③ 堀田 強志 (株式会社ティーピーディー 取締役)

#### 2 学校関係者評価委員会の開催状況

2023年5月24日 (会場 大宮スイーツ&カフェ専門学校 図書室)

#### 3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

# 2022年度 学校法人 三幸学園 大宮スイーツ&カフェ専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 小倉 裕子

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 川原 紗也佳

## 1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、製菓・調理分野の学校として「美味しくてかわいいスイーツとカフェを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、製菓・調理分野として「美味しくてかわいいスイーツとカフェを通じて、時間と空間をトータルプロデュースし、人の心を豊かにする人材を育成する」を人材育成像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

## 2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### ① 前年度重点施策振り返り

1) 学園のミッション・ビジョンの実現を目指す。また目指す人材育成像の見える化を強化し、教職員・生徒保護者が同じ方向を向き成長できるようにする。

⇒成長ストーリーの作成とポスター掲示を実施。ホームルームにて各時期に現時点と到達点の確認を実施。

2) SDGsへの積極的な取り組み

⇒ゴミの分別強化。材料発注量を見直し、ロス食材の削減。

3) 卒業後の環境変化に適応できるよう、ホームルームを活用したキャリア育成や社会人基礎力の向上を図る

⇒ホームルームにてキャリアプランの実施

### ② 学校関係者評価委員会コメント

特になし

### 3.評価項目の達成及び取組状況

#### (1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

#### ① 課題

・生徒への浸透は進んでいるが、保護者周知が不足したままである。

#### ② 今後の改善方策

- ・新入生保護者会を動画配信にて実施。
- ・ホームルームで定期的な確認の継続。

#### ③ 特記事項

・なし

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

川原委員長:安全に学生生活を続けていく上で保護者が共感してくださる事が大切だと思う為、動画で配信するのは良いアイデアだと思う。

芥川委員:教育理念や目標を見える化をして、学生・教職員・保護者が一つのゴールに向かって同じ方向を向いて進んでいくことが大事だと思う。また、保護者向けコンテンツについては、オンデマンド動画であればいつでも視聴できるが、質問があった場合の対策を整えてもらえるとなおよい。

## (2) 学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

### ① 課題

・システムツールの使い分けが不明確である。

### ② 今後の改善方策

・Google classroom をクラス連絡、Sanko Gate を全体共有ツールとして使用する。

### ③ 特記事項

・なし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

川原委員長: classroom に保護者も入れて保護者向けの案内が出来れば質疑応答も出来るのでより活用していけるようになるのではと思う。

芥川委員: 連絡ツールとして活用していると子どもから聞いている。

堀田委員: 職場では LINE、Facebook の活用を実施している。動画での配信は落とし込みの徹底ができていないのが現状。タブレットは小学校でも使用している。面白いコンテンツがあると開きやすい。

### (3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

#### ① 課題

- ・教員のアフターコロナや時代の変化に伴う業界変化への理解が追い付いていない。
- ・生徒の職業理解が不足している。

#### ② 今後の改善方策

- ・教員理解向上のため、入学者がどのような教育を受けてきたのかを知る研修を実施。
- ・インターンシップ実習の再開と共に市場調査を再開。

#### ③ 特記事項

- ・なし

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

川原委員長：インターンシップを通じて大変さを感じることで、夢に描いていた外から見る素敵でキラキラした部分とのギャップが生じる為、業界で働く方の1日を知れる機会があればいいのではと思う。

堀田委員：変化に伴い求める人材はタフな人材であるが、それに相反して時代と共に学校ではそういった教

育がなされていない矛盾を感じる。サービス業が今の時代とどこまで合わせられるのか。

芥川委員：希望していたインターン先には行けなかったが、それでも楽しかったと言っていたので、いい経験になるのではないかと思う。

#### (4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

##### ① 課題

- ・就職決定時期が後ろ倒し傾向にある。
- ・技術資格修得率が低下している。

##### ② 今後の改善方策

- ・アフターコロナの業界の動向を把握するために、企業訪問を強化する。
- ・できている、できていないを明確に提示し、自己判断でできていると感じさせないような指導を行う。

##### ③ 特記事項

- ・なし

##### ④ 学校関係者評価委員会コメント

川原委員長：就職活動について HR で業界の方が来てくださり話を聞いた為、早い段階で就職活動が意識づけられたのが良かった。1 年生の段階から、個人のスケジュールを一人ずつ確認した上で指導する必要があるのではと感じる。

堀田委員：求人票ベースで出ていなくても募集している良い企業があると思う為、Facebook 等で探したりすると就職の幅が広がるのではと思う。

芥川委員：本人のやる気、もしくは行きたい企業があるのであれば出来る限りサポートしたいと思う。

## (5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

### ① 課題

- ・18歳より成年となったことにより保護者連携の取り方が変化した。
- ・卒業後の転職支援体制ができていない。

### ② 今後の改善方策

- ・保護者に把握してもらおうべきことと本人に任せてよいものを再検討する。

### ③ 特記事項

- ・なし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・芥川委員：単位等の事も含めて把握しておきたいので学校からの連絡は欲しいと思う。



## (6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

### ① 課題

- ・危機管理マニュアル等を使用した定期的な訓練が実施できていない
- ・生徒が希望するインターンシップ先を確保することが困難であった

### ② 後の改善方策

- ・定期的な訓練の実施
- ・インターンシップの条件をまとめ、事前に受け入れ可能先を確保しておく。

### ③ 特記事項

- ・なし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

芥川委員:地図上で避難先を確認する紙上訓練をやってみたらいいのではないかと思います。

堀田委員:当社でも消防訓練を行っており、商業施設でも避難訓練は定期的にあるので必要な取り組みである。

## (7) 学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

### ① 課題

・入学後のギャップをうまないような教務指導と広報活動の連動。

### ② 今後の改善方策

・入学前のプレスクールの実施。  
・授業担当者へ広報(どのように募集をかけているのか)を共有する。

### ③ 特記事項

・なし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

川原委員長：入学してのモチベーションの差は出てくるとは思う皆が歩幅を合わせる必要はないが、歩み寄って進んでいくことでギャップが生まれにくくなるのではないかと思います。

堀田委員：全ての学生にまんべんなく教育を落とし込んで行くのは難しい。学生がどう受け止めていくかだと思ふ。

芥川委員：明確な目標を持って入学する子とそこまでの気持ちではない子もいるので、皆が同じような気持ちで学生生活を送っていけるよう支援していくことが大事ではないかと思ふ。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018年度～2022年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023年度～2027年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

- ・自己評価の改善への未着手がある。
- ・更なる法令順守の推進。

② 今後の改善方策

- ・改善点を会議にて共有し、担当を決めて改善を図る。
- ・会議や掲示板等を活用し、全ての教職員が法令順守できるよう継続的に働きかける。

③ 特記事項

- ・なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

・社会貢献、地域貢献への取り組みを教員主体で実施。

② 今後の改善方策

・生徒主体で活動できるよう、募集方法や進め方の検討。

③ 特記事項

・なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

川原委員長：自分の作ったものを手に取ってもらえる喜びは産学連携ならではの経験であった。自身に繋がる機会でもあったので、今後も積極的に実施してほしい。

堀田委員：一番学生の成長に繋がるように思う。規模が小さくても定期的開催してもらいたい。

芥川委員：社会貢献・地域貢献は大事。学校の存在を知ってもらえる機会にもなるので良いと思う。

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

・留学生除籍者の発生。

② 今後の改善方策

・留学生がきちんと登校できるようサポートセンターや入国管理局と連携を図る。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

川原委員長:留学生が何らかの理由により来られなくなった時に、クラスメイトでサポートすることが重要。その経験により自分自身の考え方、人との関わりを学べるようになると思う。

堀田委員:企業からすれば外国人の受入は手続きが大変である。そのネックを上回るものがあれば、熱意も技能も高い人が多いので受け入れたいと思う。

芥川委員:自社の技能実習生はモチベーションや能力が高い人が多い。日本人も見習える部分があるのではと思う。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

2022年度はコロナと共存しながら試行錯誤をした1年であった。生徒の活動の幅をコロナ禍以前に近づけることができたが、教員体制が取り切れていなかった。

また、2023年度は下記を重点的に取り組んでいく

1)学園のミッション・ビジョンの実現を目指す。また、人材育成像の見える化を引き続き行い全員が同じ方向を向き成長できるようにする。

2)アフターコロナによる業界の変化の把握強化。

3)卒業後に活かせるキャリア育成や社会人基礎力の向上を図る。

以上